介護老人保健施設の運営規程

第1条 医療法人社団木野記念会が開設する介護老人保健施設於保老健センターが実施する介護老人保健施設サービスの適正な運営を確保する為に、人員及び管理運営に関する事項を定める。

(事業の目的)

第2条 入所者に対し、適切な介護老人保健施設サービスを提供することを目的とする。

(運営の方針)

第3条 介護老人保健施設の従業者は、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行い、居宅における生活への復帰を目指す。

2 入所者への意思及び人格を尊重し、常に入所者の立場に立って介護老人保健施設サービスの提供に努める。

3 明るく家庭的な雰囲気有し、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、居宅介護支援事業者その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めると共に、関係市区町村とも連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

(名称及び所在地)

第4条 名称及び所在地は次の通りとする。

- (1) 名称 於保老健センター
- (2) 所在地 静岡県磐田市一色26番地

(従業者の職種、員数、及び職務内容)

第5条 介護老人保健施設の従業者の職種、員数、及び職務内容は次の通りとする。

① 管理者 1人

管理者は、従業者の総括管理、指導を行う。

② 医師 1人以上

医師は、入所者の病状に応じて妥当適切に診療を行い、介護老人保健施設に携わる従業者の管理、指導を行う。

③ 支援相談員 1人以上

支援相談員は、入所者又はその家族からの相談に適切に応じると共に、必要な助言その他の援助を行う。

④ 看護介護職員 27人以上

・看護職員 常勤換算 7人以上

・介護職員 常勤換算 20人以上

看護介護職員は、入所者の病状及び心身の状況に応じ、看護及び介護を提供する。

⑤ 管理栄養士 1人以上

管理栄養士は、入所者の栄養管理、栄養ケアマネジメント等栄養状態の管理を行う。

⑥ 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 1人以上

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士は、医師や看護職員等と共同してリハビリテーション実施計画書を作成するとともに、リハビリテーションの実施に際し、指導等を行う。

⑦ 介護支援専門員 1人以上

介護支援専門員は、入所者の施設サービス計画の原案の作成等を行うとともに、要介

護認定及び要介護認定更新の申請手続きを行う。

(入所定員)

第6条 介護老人保健施設の入所定員は80人とする。

(介護老人保健施設サービスの内容)

第7条 介護老人保健施設サービスの内容は次の通りとする。

居宅における生活の復帰を目指し、施設サービス計画に基づいて、入所者の心身の状況及び病状、環境に照らし、適切な医療及び医学的管理の下における看護・介護並びにリハビリテーションその他日常生活上の世話、栄養状態の管理等を行う。

(利用料その他の費用の額)

第8条 介護老人保健施設サービスの利用料その他の費用の額は、厚生労働大臣が定める基準によるものとし、介護老人保健施設サービスが法定代理受領サービスであるときには、利用料のうち、負担割合証に記載された割合の額とする。

2 食費	1日	1,845円
3 居住費	1日	500円(多床室)
		1,700円(従来型個室)

上記2、3にかかる費用については、市町村の発行する減額証明書を提示した場合、その証明書に記載された額とする。

4 その他、日常生活にかかる費用の徴収が必要な場合は、利用者又は家族に説明をし、同意を得たものに限り徴収する。

(日用品費・教養娯楽費)

口腔ケアセットA(普通の歯ブラシ歯磨き粉)	150円(月額)
口腔ケアセットB(A+義歯洗浄剤)	200円(月額)
口腔ケアセットC(歯が全く無い方用歯ブラシ)	400円(月額)
入浴セット(シャンプー、リンス、ボディシャンプー等)	160円(日額)
整容セット(石鹸類、保湿剤等入浴日以外)	160円(日額)
おしぼり	30円(日額)
レクリエーション費(色紙、絵の具等のレクリエーション材料費)	160円(日額)
洗濯代(衣類、寝具類)	800円(一袋)
洗濯代(その他)	120円(一点)
理美容代	2100円~(メニューによる)
5 特別室料(従来型個室)	500円(日額)

6 その他上記以外に個人的に希望され、購入するものについては別途実費徴収とする。

(施設利用にあたっての留意事項)

第9条 災害その他やむを得ない事情がある場合を除き、入所定員及び居室の定員を超えて入所させない。

- 入所者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、医薬品などの管理を適正に行う。
- 感染症の発生、蔓延しないように必要な措置を講じる。
- 利用にあたっては、懇切丁寧を旨とし、入所者又はその家族に対して療養上必要な事項について、理解し易いように指導又は説明を行う。
- 診療にあたっては、療養上妥当適切に行う。看護、医学的管理の下における介護については、適切な技術により行い1週間に2回以上入浴又は清拭を行う。
- 入所者又は他の入所者等の生命又は身体を保護する為緊急やむを得ない場合を除き、身

体拘束その他入所者の行動を制限する行為は行わない。緊急やむを得ないと認められる場合には、利用者及びその家族に状況等説明し、同意を得て行う。この場合でも、必要最低限の時間、期間とし、速やかな解除に努める。

(非常災害対策)

第10条 消防法施行規則第3条に規定する消防計画及び風水害、地震等の災害に対処する計画に基づき、また消防法第8条に規定する防火管理者を設置して非常災害対策を行う。

- (1) 防火管理者は防災委員会委員長をあて、火元責任者には委員会職員をあてる。
- (2) 始業時・終業時には火災危険防止のため、自主的に点検を行う。
- (3) 非常災害用の設備点検は契約保守業者に依頼し、点検の際は防火管理者が立ち会う。
- (4) 非常災害設備は常に有効に保持するように努める。
- (5) 火災の発生や地震等の災害が発生した場合は、被害を最小限にとどめる為自衛消防隊を編成し、任務の遂行にあたる。
- (6) 防火管理者は、従業員に対して防火教育、消防訓練を実施する。
 - ①防火訓練及び基本訓練(消火・通報・避難)……年2回以上
 - ②利用者を含めた総合訓練……年2回以上
 - ③非常災害用設備の使用法の徹底……随時

(虐待防止)

第11条 当施設は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又は発生した場合の再発防止のため、以下のように取り組む。

- 2 身体拘束適正化・虐待防止委員会を設置し指針を整備、3月に1回以上の頻度で委員会を開催し、職員に周知する。
- 3 年2回以上身体拘束及び虐待の防止のための研修を行う。
- 4 各措置を適切に実施するための担当者を置く。

(その他運営に関する留意事項)

第12条 従業員の質的向上を図るため研修の機会を設け、業務体制を整備する。

- 2 従業員は業務上知り得た入所者又はその家族の秘密を保持する。
- 3 従業員であった者に、業務上知り得た入所者又は家族の秘密を保持させる為、従業員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持させる旨を従業員との雇用契約の内容とする。
- 4 この規程に定める事項の他、運営に関する重要事項は医療法人社団木野記念会於保老健センターが定めることとする。

- (附則) この規程は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
- (附則) この規程は、平成 15 年 5 月 1 日から施行する。(第 5 条改正)
- (附則) この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。(第 4・5 条改正)
- (附則) この規程は、平成 17 年 10 月 1 日から施行する。(第 5・7・8 条改正)
- (附則) この規程は、平成 24 年 1 月 1 日から施行する。(第 5・8 条改正)
- (附則) この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。(第 5・7・8・10 条改正)
- (附則) この規程は、令和 4 年 5 月 1 日から施行する。(第 8・9・11 条改正 (12 条追加))
- (附則) この規程は、令和 4 年 12 月 1 日から施行する。(第 8 条改正)
- (附則) この規程は、令和 7 年 1 月 1 日から施行する。(第 8 条改正)
- (附則) この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。(第 8 条改正)